

全国1535高校「実」合格者数

# 週刊朝日

黒い検察報告書、第2弾  
小沢裁判に仕掛けた  
これだけの「罠」

吉永小百合  
独占特写&  
インタビュー

天皇陛下の  
生前の遺言

5 | 18  
2012  
370円  
木村文乃

ベストセラール名医が  
伝授する

「長寿の極意」と  
「幸せな生き方」

無罪判決で  
いよいよ  
動き出す

# 小沢一郎 総理への賭け

日帰り治療が可能な複数の選択肢

# 下肢静脈瘤

かしじょうみゃくりゅう

この10年間に治療法が格段に進歩し、患者の選択の幅が広がった下肢静脈瘤。命にかかわることは少ないものの、痛みやかゆみ、こむら返り、あるいは見た目の悪さなどで生活の質（QOL）を低下させる恐れもあり、早め到的確な治療を受けたい。

「5年ほど前から、両足の後ろ側、とくにふくらはぎ付近の静脈が浮き上がり、気になっていました」と語るのは、東京都在住の主婦、三山慈子さん（70歳）だ。その後、症状は徐々に悪化。静脈がポコポコと浮き上がってこぶのようになり、毎週通っているフラダンスも「みんなに見られたくない」と気が重くなり、楽しみになくなっていた。

また2年前には、見た目だけではなく、就寝中に足がこむら返りを起こして激しく痛むなど、下肢静脈瘤特有の症状も始め、耐え切れなくなると、治療することを決断したという。「傷がほとんど残らないと聞いていたので、最初からレーザー治療を考えていました」と三山さん。下肢静脈瘤の血管内レーザー治療

で知られる東京の北青山Dクリニクを受診した。下肢静脈瘤とは、おもに下肢の皮膚表面に近い部分の静脈（表在静脈）が浮き上がったり、蛇行しながらポコポコとこぶのように膨れ上がったりする病気だ。進行するにつれて、下肢のだるさや痛み、むくみ、かゆみ、寝ているときのこむら返りなどの症状が出る。さらに重症化すると、足に黒色の色素沈着が起きたり、潰瘍ができたり、血液が固まる血栓ができることもある。

足には、心臓から送られてきた血液を心臓に送り返す役割がある。下肢静脈瘤を引き起こす表在静脈は、その血液の通路の一つだが、血液が逆流しないよう、多数の弁が存在する（次ページのイラスト参照）。その弁が壊れ、障害を受けることにより、血液が逆流し、静脈が拡張した状態が下肢静脈瘤だ。

ただし、足には表在静脈のほかにも、もっと大きな深部静脈と呼ばれる基幹静脈があり、表在静脈が逆流しても完全な血行不全になることはない。院長の阿保義久医師はこう話す。

「遺伝的な要因のほか、立ち仕事を続けている人に多く、妊娠した女性にも起きやすい傾向があります。高齢になるほど増え、男性より女性に多く見られます」

阿保医師の診断により、三山さんは、下肢静脈瘤の中でもっとも症例が多く、症状も重い「伏在静脈瘤」とより小さな静脈にでき症状も軽い「クモの巣状静脈瘤」の混在型と判明した。しかし、クモの巣状静脈瘤は症



北青山Dクリニク  
院長  
阿保義久医師



溝の口慶友クリニク  
院長  
岩田憲治医師

**レーザー治療も一部に保険が適用**

下肢静脈瘤には複数の治療の選択肢があるが、なかでも最新の治療法が血管内レーザー治療だ。阿保医師が解説する。

「治療時間は30分ほどだったでしょう。痛みもなく、『もう終わったの』という感じでした。包帯を巻いてもらってその日のうちに自分の足で帰宅し、1週間だけ弾性ストッキングをはいただけ。見た目もきれいにほぼ治りました」と三山さんは振り返る。

「患部の表在静脈の中にレーザーファイバーを入れ、静脈をレーザーで焼灼して閉塞させる治療法です。日本ではここ数年の間に広く知られるようになりました。当院では2005年に機器を導入して治療を始め、現在では年間2千肢近く、この方法で治療しています」

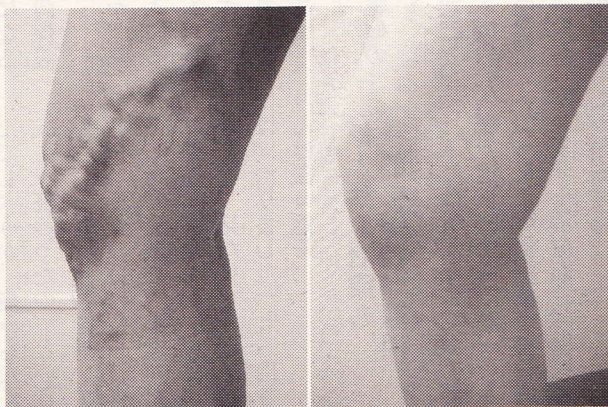
「血管内レーザー治療の利点は、施術時間は片足20〜30分程度、入院することなく日帰りで治療を受けられ、からだへの負担が少ない。また、レーザーは基本的に針で挿入するため、切開の必要がなく傷痕がないこと」

「波長が長いレーザーほど、最少の照射熱量と最短の時間で治療ができます」

からだの負担が軽減したストリッピング術

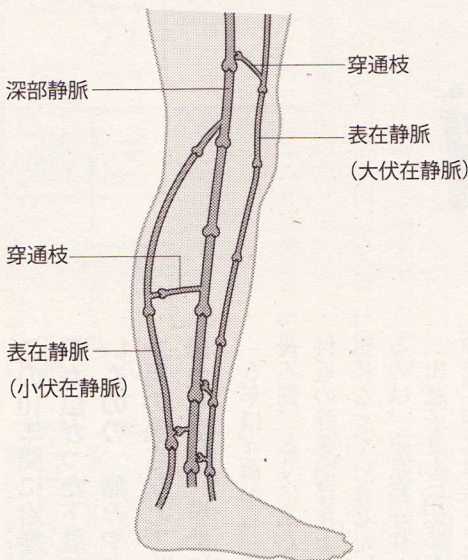
「波長が長いレーザーほど、最少の照射熱量と最短の時間で治療ができます」

レーザー治療の術前・術後



大伏在静脈瘤を発症し、レーザーと硬化療法を組み合わせる治療を受けた埼玉県の女性(52歳)の治療前(写真左)と治療後(同右)(阿保医師提供)

■下肢の静脈の模式図



表在静脈の弁が壊れて血液が逆流した状態が下肢静脈瘤の代表的症例である伏在静脈瘤だ

より負担が少ない治療を求める患者は多く、同クリニックでレーザー治療を受ける患者の5分の4は自費診療である2千ナメートルのレーザーでの治療を求めるといふ。ちなみに、手術費用(片足)は2千ナメートルの場合、25万円(税別)程度、保険が適用される980ナメートルの場合、追加される硬化療法費用を合わせると3割負担で総額8万円前後(術前、術後の検査費用などは除く)。

血管内レーザー治療に対し、これまで実施されてきた治療法が「ストリッピング」と呼ばれる手術法。表在静脈にワイヤを通して静脈を引き抜く方法だ。かつては「怖い手術」とのイメージがあり、入院する必要もあったが、改良が重ねられ、いまでは日帰り手術も可能で、からだへのダメージも軽減されている。

「まず麻酔の進歩が大きい。かつては全身麻酔か、腰椎麻酔などの強い麻酔を使っていたため、1週間ほどの入院が避けられなかったの」